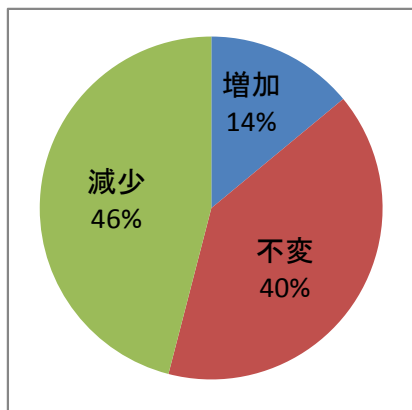


## ■ データから見た業界の動き

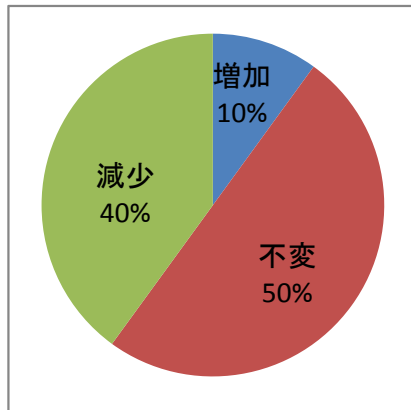
(平成25年1月分)

● 2012 / 1

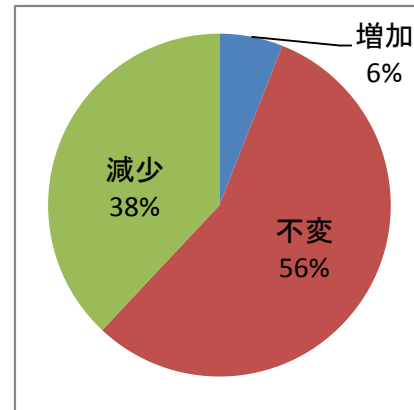
売上高(前年同月比)



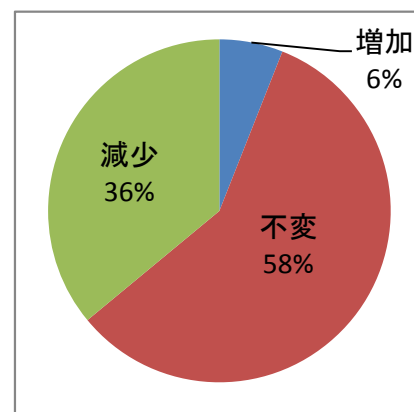
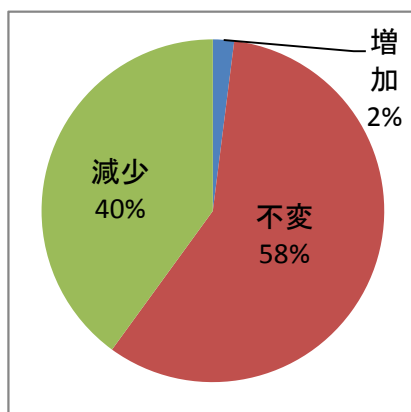
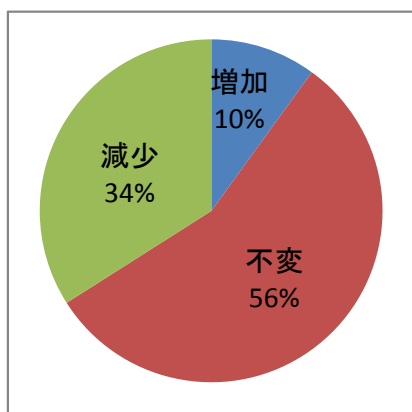
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2013 / 1



## ■ 対前年同月比及び前月比景気動向D.I値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/1	2012/12	2013/1	2012/1	2012/12	2013/1	2012/1	2012/12	2013/1
売上高	-40	-40	-40	-27	-20	-13	-32	-28	-24
収益状況	-35	-50	-50	-27	-33	-30	-30	-40	-38
景況感	-40	-55	-35	-27	-37	-27	-32	-44	-30

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の1月の景況は、全業種のD I値が、売上高-24（前年同月比+8）、収益状況-38（前年同月比-8）、景況感-30（前年同月比+2）となっており、業種別のD I値では製造業で、売上高-40（前年同月比±0）、収益状況は-50（前年同月比-15）、景況感-35（前年同月比+5）。非製造業で、売上高-13（前年同月比+14）、収益状況-30（前年同月比-3）、景況感-27（前年同月比±0）となっている。

全体の前年同月比では売上高、景況感は改善の方向にあるものの収益状況においては悪化傾向が続いている。

前月比では、製造業では景況感が20ポイントと大きく改善したが売上高、収益状況ともに前月から改善していない。一方、非製造業は売上高が7ポイント、収益状況が3ポイント、景況感は10ポイントと全ての項目でD I値が好転した。

情報連絡員による県内の1月の業況報告は、季節的な要因も含め好調となった業種が一部で見受けられるものの、全体的に厳しい状況が続いている。製造業では、円安による輸出への期待が高まる一方で、原材料や物価の上昇により利益確保が難しいとの報告が多かった。また、依然として受注・仕事量の減少等に歯止めがかからず、雇用調整に踏み切らざるを得ないという報告もあった。

非製造業では、中央自動車道の笹子トンネル天井板落下事故の影響による売上の落ち込みが宿泊業を中心に報告された。

また、コスト増や消費意欲の停滞が依然として続いており収益に結びつかないなど先行きへの不安が情報連絡員からの報告で色濃く見受けられる結果となった。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### ● 製造業

食料品（水産物加工）	自社製品のギフトは横ばいだが、伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いが好調のため前年同月比120%と伸長した。しかし、円安による原料や燃料費の値上げがコスト増の要因になると予測する。
食料品（洋菓子製造）	円安から輸出が倍増。OEMや自社製品も好調のため売上は前年同月比127.5%。
食料品（製麺）	毎年1月は観光客の減少に伴い売上が減少するが、今年は笹子トンネル天井板崩落事故の影響もあり例年以上に売上が落ち込んでいる。
食料品（菓子）	年々売上が減少している。
繊維・同製品（織物）	絹糸が値上がりしている上に、円安が重なり本絹ネクタイの採算が悪化している。輸入商品の利益確保が難しくなり、国内業者に値下げ要請を強いる問屋が増加している。材料や燃料等の値上がりにより利益確保が厳しい。

木材・木製品製造	円安による輸入木材の値上げがすでに始まっており、2月から売値の上昇を行う予定。
家具製造	昨年末からの円安による諸物価の高騰や消費税増税を控え、製造物のコストアップ要因が目白押しとなり中小企業の経営圧迫が心配される。
窯業・土石（生コン）	リニア特需の反動もあり売上は、前年同月比81%。今後は、中部横断自動車道建設工事により峡南地域のコンクリート需要は増すものの、その他は減少する見通し。
鉄鋼・金属	電気・電子・半導体関連は、仕事量激減のため雇用調整を実施。自動車関連は4月頃から昨年並みに回復する見込み。輸出製品は、円安でよいが生産量が上がらない。
その他（貴金属・宝石①）	株高で多少景気が上向きな気配が感じられる。
その他（貴金属・宝石②）	円安による地金の高騰が消費の落ち込みを呼び、運転資金の確保が難しくなると思われる。

## ● 非製造業

卸売（紙製品）	中国の景況に大きく左右される。
卸売（ジュエリー）	国際宝飾展に本県から多数の業者が出展した。人出も多く売上も好調だった。しかし、地金の高騰が商品価格に反映され、消費者の購買意欲に影響がでることを懸念する。
小売（青果）	荷動きが少なく業界全体が厳しい状況にある。
小売（食肉）	消費不振が続いている。特に牛肉の消費は回復の兆しささえ見えない。2月以降牛肉の規制緩和が実施され、消費者の牛肉購買意欲が上昇することを期待する。
小売（水産物）	笹子トンネル天井版崩落事故や大雪の影響により売上が前年より10%減少している。また、円安による輸入鮮魚等の値上がりが懸念される。
小売（石油）	ガソリン、軽油は年末年始の帰省や行楽等により需要が増加。灯油も寒気や大雪等により需要増加。原油価格は若干値下がりしているが為替レートの高円安ドル高により輸入コストが値上がりしたため各給油所は1リットルあたり2～3円程度値上げした。
商店街	中央道笹子トンネルの崩落事故の影響によりビジネス客や観光客が極端に減少した。また、忘新年会ともに例年を下回った。
宿泊業	中央道笹子トンネルの崩落事故による影響が続いている。車での観光客が激減、厳しい寒さも重なり集客が減少している。中央道が全面開通しても客足が順調に回復するか危惧する。

美容業	低料金による美容院の売上が伸びている。既存店は、入店客数、客単価ともに減少。広告キャンペーンやカットだけでなくカラーやパーマ等の提案をしても成果が上がらない。新規開店の相談件数も前年に比べ減少している。
廃棄物処理（事業系）	燃料代の高騰により、ますます利益確保が難しい。
警備業	中央道笹子トンネルの崩落事故対策に伴う警備業務を受注したため、業務が増加した。
建設業（鉄構）	首都圏を中心に価格、発注量に関し上昇傾向が見られるものの、山梨県内は依然として厳しい状況が続いている。
運輸（タクシー）	売上は、前年に比べ減少している。燃料の高騰や消費税の値上げ等、経営を圧迫する要因が多く今後の見通しが見えない。
運輸（トラック）	円安による燃料価格の高騰が、この先どう影響してくるのか不安である。